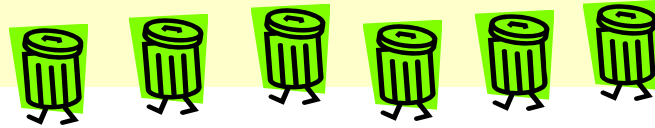


ごみ搬入量の推移はどうなっているの？



単位:トン

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
青梅市	31,722.16	31,024.47	31,335.18
福生市	13,147.39	12,540.77	12,542.74
羽村市	12,050.23	11,918.32	12,098.26
瑞穂町	8,498.69	8,125.63	8,296.15
構成市町計	65,418.47	63,609.19	64,272.33
広域支援	0.00	2,236.44	0.00
合計	65,418.47	65,845.63	64,272.33

平成 23 年度の構成市町（青梅市・福生市・羽村市・瑞穂町）から搬入された燃やせるごみの量は、64,272.33 トンで、前年度と比べ 663.14 トン（1.0%）の微増となっています。

なお、全体量の前年度比では 1,573.30 トン（2.4%）減量しています。これは、平成 22 年度では広域支援として、多摩川衛生組合（構成市：稲城市・狛江市・府中市・国立市）の燃やせるごみを受入れましたが、平成 23 年度は広域支援要請等による構成市町以外からのごみ搬入がなかったことによるものです。

ごみ焼却処理に伴う排出ガスの測定結果の状況は？

■ 排出ガス測定結果 下の表は、平成 24 年 2 月から 9 月までの排ガス測定の結果です。すべての項目において、法規制値ならびに公害防止協定値を下回っています。

項目	硫黄酸化物	窒素酸化物	ばいじん	塩化水素	水銀	ダイオキシン類	
単位	ppm	ppm	g/m ³ (N)	ppm	mg/m ³ (N)	ng-TEQ/m ³ (N)	
法規制値	(約440)	250	0.08	430	—	1	
公害防止協定規制値	30	50	0.02	25	—	0.5	
公害防止協定目標値	10	40	0.01	10	0.05	0.1	
1号炉	H24. 3. 23	<1	20	< 0.001	9	0.005	0.0058
	H24. 7. 13	<1	25	< 0.001	8	0.007	0.0048
	H24. 10. 31	分析中	分析中	分析中	分析中	—	分析中
2号炉	H24. 2. 29	<1	10	< 0.001	7	0.007	—
	H24. 6. 27	<1	28	< 0.001	8	< 0.005	0.0084
	H24. 9. 28	<1	18	< 0.001	9	—	0.0069
3号炉	H24. 2. 13	<1	12	0.002	6	< 0.005	—
	H24. 5. 11	<1	20	< 0.001	8	0.009	0.0098
	H24. 8. 31	<1	35	< 0.001	8	—	0.0088

※ 赤字は、災害廃棄物焼却時の測定結果です。

■ 大気環境中のダイオキシン類測定結果 単位:pg-TEQ/m³

採取場所	採取日	H22. 6. 23~ H22. 6. 24	H23. 6. 15~ H23. 6. 16	H24. 6. 18~ H24. 6. 19
環境基準値		0.6		
羽村市立羽村第三中学校		0.017	0.026	0.026
羽村市立松林小学校		0.020	0.020	0.031
羽村市立あさひ公園		0.018	0.021	0.026
瑞穂町立瑞穂第四小学校		0.028	0.021	0.030
瑞穂町富士見公園		—	0.029	0.032
瑞穂町むさしの会館		0.029	—	—

※ 赤字は、災害廃棄物焼却時の測定結果です。

左の表は、西多摩衛生組合周辺の大気環境中のダイオキシン類測定結果（6月測定分）です。測定は、24 時間の試料採取による測定結果で、各地点とも環境基準値を下回っています。

なお、瑞穂町内の測定場所については、平成 23 年度より、『瑞穂町むさしの会館』から『瑞穂町富士見公園』に変更しています。



編集・発行 西多摩衛生組合 2012年11月発行【No.14】

アクセス図

（構成団体 青梅市・福生市・羽村市・瑞穂町）

- 西多摩衛生組合環境センター
住所：〒 205-0012 東京都羽村市羽 4 2 3 5
TEL：042-554-2409 FAX：042-554-2426
- フレッシュランド西多摩
住所：〒 205-0012 東京都羽村市羽 4 2 2 5
TEL：042-570-2626 FAX：042-570-2288

西多摩衛生組合
ホームページ

<http://www.nishiei.or.jp>

西多摩衛生組合

2012年11月発行
No.14

にしたまエコにゅうす



平成24年7月13日（金）・14日（土） 災害廃棄物受入施設周辺住民を対象とした被災地見学が実施されました。

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災により、東北地方においては膨大な量の災害廃棄物が発生しました。被災地では、この瓦礫（がれき）の処理が進まず、復興に向けて大きな障害となっています。

被災地のより早い復旧・復興に支援協力するため、災害廃棄物の全国的な広域処理が必要とされる中、西多摩衛生組合においても、構成市町（青梅市・福生市・羽村市および瑞穂町）の意思決定に基づき、東京都が実施する災害廃棄物処理事業に参加し、平成 24 年 6 月 11 日から宮城県女川町の災害廃棄物受入れを開始しました。

東京都多摩地域での災害廃棄物受入開始に際し、宮城県および環境省の主催により、多摩地域で災害廃棄物を受入れている清掃工場等（受入予定施設を含む）の周辺住民等を対象に、被災地における現場視察および被災地住民との意見交換を通じ、災害廃棄物の広域処理に理解を深めることを目的とした被災地見学会が実施されました。

西多摩衛生組合の周辺住民からは、組合と公害防止協定を結んでいる羽村九町内会自治会生活環境保全協議会ならびに瑞穂町環境問題連絡協議会の役員 18 名の方々に参加され、被災現場での災害廃棄物処理の実状や、広域処理（県外処理）の必要性と安全性について視察が行われました。



女川町民との交流会の様子

平成24年10月12日（金） 地元協議会主催による被災地見学報告会が開催されました。

羽村九町内会自治会生活環境保全協議会ならびに瑞穂町環境問題連絡協議会の主催により、西多摩衛生組合において協議会区域内の方々やPTAなどの学校関係者を対象とした被災地見学報告会が開催されました。

被災地を実際に見学された協議会役員からは、宮城県庁で行われた被災地自治体（宮城県・石巻市・女川町）、環境省および東京都による説明会の内容（津波による被害状況、災害廃棄物の発生状況）や、石巻市ひばり野埠頭仮置場、女川町災害廃棄物選別処理施設等での処理状況などが説明されたほか、女川町民との交流会において被災地の生の声を聞き、その思いを知ることができる大変貴重な体験であったことなどが報告されました。

また、西多摩衛生組合ではこの場をお借りし、災害廃棄物の受入前後における空間線量率などの環境測定データや焼却状況を示す技術的データから、環境面への影響はないものと判断できることなどを説明させていただきました。

《被災地見学会に参加された協議会役員の声》

- 組合からの一方的な情報だけではなく、自分たちが直に現地での処理状況等を見て、広域処理の必要性・安全性を確認した上で、情報発信していくことが重要だと思います。
- 被災地では、はじめから広域処理ありきで災害廃棄物の処理をしているのではなく、仮設焼却炉を建造し、できる限り現地で処理できるよう取り組んでいることがわかりました。
- 女川町の想像を絶する被害状況を目の当たりにし、平地が少ない地域特性からも、現地処理がとても困難であることをはじめて知りました。
- 被災現場での災害廃棄物の選別処理工程を、自分の目で直接確認することによって、現地で作業されている方々が責任を持ってその安全性を確保していることを検証することができました。
- 現地の方のお話『一日も早く災害廃棄物の処理を終え、子供たちが大人になったときに夢を持って地元で働きたいと思える環境を作らなければ真の復興にはならない。』がとても印象的でした。
- 2014 年 3 月までに災害廃棄物の全量処理を目指している被災地の人々の思いをくみ取り、県内だけでは処理しきれない災害廃棄物については、受入れに理解を示していくことも、私たちが被災地の方々のためにできる支援のひとつなのではないでしょうか。



被災地見学報告会の様子

宮城県女川町廃棄物選別処理施設の放射能の安全確認（東京都実施）

■ 宮城県女川町災害廃棄物選別処理施設での放射能測定

- 選別エリアの空間線量率(0.09~0.14 マイクロシーベルト/時間)およびストックヤードの遮へい線量率(0.000~0.003 マイクロシーベルト/時間)は、下記のとおり搬出基準を満たしています。
- 災害廃棄物を積載したコンテナ両側面の空間線量率は、0.08~0.13 マイクロシーベルト/時間で推移しています。
- 災害廃棄物(木くず等)の放射性セシウム濃度は、加重平均 45~84 ベクレル/kgとなっています。

* 空間線量率・・・対象とする空間の単位時間当たりの放射線量を測定した結果
* 遮へい線量率・・・試料を鉛の箱の中に入れ外部の放射線を遮断し、放射線量を測定した結果

【選別エリア測定結果】

年月	平成24年	6月分	7月分	8月分	9月分
空間線量率 [μSv/h]	バックグラウンドエリア	0.10 ~ 0.11	0.10 ~ 0.14	0.10 ~ 0.11	0.10 ~ 0.12
	選別エリア	0.09 ~ 0.11	0.09 ~ 0.14	0.09 ~ 0.13	0.09 ~ 0.13

※ 搬出基準 選別エリア ≤ 3 × バックグラウンドエリア

【ストックヤード測定結果（東京都内に搬出した全ての測定結果）】

年月	平成24年	6月分	7月分	8月分	9月分
遮へい線量率 [μSv/h]	搬出物	0.000 ~ 0.003	0.000 ~ 0.003	0.000 ~ 0.003	0.000 ~ 0.003

※ 搬出基準 搬出物 ≤ 0.01

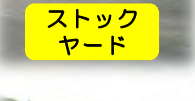
【コンテナ両側面測定結果（東京都内に搬出した全ての測定結果）】

年月	平成24年	6月分	7月分	8月分	9月分
空間線量率 [μSv/h]	コンテナ両側面	0.08 ~ 0.09	0.08 ~ 0.13	0.08 ~ 0.11	0.08 ~ 0.10
	平均値	0.08	0.08	0.08	0.08

【搬出物濃度測定】

年月	平成24年	6月分	7月分	8月分	9月分	
搬出物採取日		H24.6.1	H24.7.4	H24.8.3	H24.9.7	
放射能濃度 [Bq/kg]	木くず (80%)	不検出 (<40)	不検出 (<40)	48	不検出 (<40)	
	廃プラスチック (14%)	105	不検出 (<40)	不検出 (<40)	56	
	その他 可燃物 (6%)	紙くず	不検出 (<40)	不検出 (<40)	不検出 (<40)	不検出 (<40)
		繊維くず	149	118	660	218
	その他	176	49	54	不検出 (<40)	
加重平均		57	45	84	53	

※ 「不検出」とは、検出下限値以下を表します。また、()内は、検出下限値を表します。
※ 木くず、廃プラスチックの不検出 (<40) は40Bq/kgとして計算。
※ その他可燃物は紙くず、繊維くず、その他の中から測定値が一番高かったものを採用。



災害廃棄物の受入れ状況

平成24年6月11日から受入開始

- 災害廃棄物の受入れには、宮城県女川町の災害廃棄物選別処理施設の稼働能力と東京都内各清掃工場の受入可能量に関連性があることから、東京都が受入施設の搬入量の調整を行っています。また、西多摩衛生組合の状況は、下記のとおり受入予定量よりも実績量が下回っています。
- なお、宮城県女川町の災害廃棄物(可燃性廃棄物)の搬出については、平成25年3月末までに完了する予定とのことです。(東京都へ確認済み)

年月	受入予定			受入実績		
	日数(日)	台数(台)	予定量(t)	日数(日)	台数(台)	受入量(t)
H24.6	15	35	140	15	35	139.58
H24.7	15	40	160	10	20	75.79
H24.8	15	35	140	5	10	38.35
H24.9	20	100	400	15	35	134.91
H24.10	23	115	460	13	59	225.37
小計	88	325	1,300	58	159	614.00
H24.11	22	110	440	-	-	-
H24.12	20	100	400	-	-	-
H25.1	11	55	220	-	-	-
H25.2	14	70	280	-	-	-
H25.3	21	105	420	-	-	-
合計	176	765	3,060	58	159	614.00



災害廃棄物搬入車両



西多摩衛生組合環境センターでの焼却状況

■ 災害廃棄物の焼却方法および焼却炉の燃焼管理等について

- 選別可燃ごみと災害廃棄物を混ぜたものを一般可燃ごみに最大15%混入させ焼却します。また、24年8月までは災害廃棄物の搬入量が少なかったため、混入率10%以内で焼却しています。(災害廃棄物の搬入量が少ない時も同様)

* 選別可燃ごみ：西多摩衛生組合構成市町のリサイクルセンター等で中間処理される廃棄物のうち、再資源化が困難であるため、環境センターで焼却処理するプラスチック類等です。

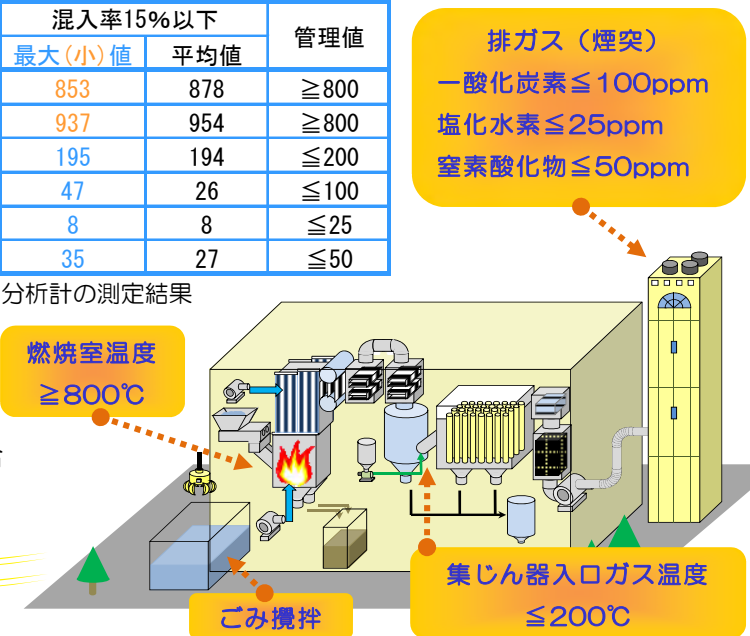
- 燃焼状態および有害物質の発生状況の確認をしています。

災害廃棄物焼却時の主なデータ（6月から10月までの実績）

主な監視項目	混入率10%以下		混入率15%以下		管理値
	最大(小)値	平均値	最大(小)値	平均値	
一次燃焼温度(°C)	842	885	853	878	≥800
二次燃焼温度(°C)	911	954	937	954	≥800
集じん器入口温度(°C)	195	194	195	194	≤200
排ガス一酸化炭素濃度(ppm)	52	24	47	26	≤100
排ガス塩化水素濃度(ppm)	8	7	8	8	≤25
排ガス窒素酸化物濃度(ppm)	35	26	35	27	≤50

※ 測定結果は、焼却施設内に設置している温度計及び自動分析計の測定結果

- 公害防止協定値を順守しています。排ガスの測定結果は裏面に記載してあります。
- 情報公開
公害監視盤(正門横設置)および西多摩衛生組合ホームページに受入量等を公表しています。

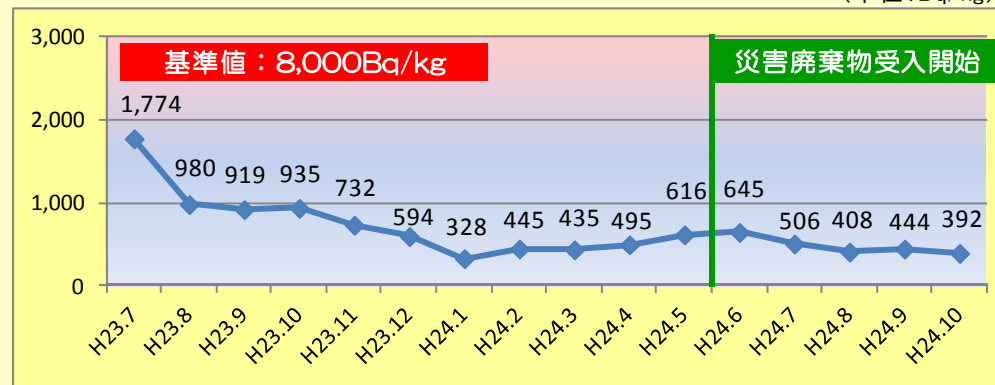


西多摩衛生組合ホームページもご覧ください!

西多摩衛生組合環境センターの放射性セシウム濃度および空間線量率の測定結果

■ 飛灰中の放射性セシウム濃度測定結果

(単位: Bq/kg)



※ 飛灰中の放射性セシウム濃度は、セシウム134とセシウム137の合計値

■ 排ガス中の放射性セシウム濃度測定結果

(単位: Bq/m³N)

年月	H23.7	H24.1	H24.2	H24.3	H24.4	H24.5	H24.6	H24.7	H24.8	H24.9	H24.10
ろ紙部	放射性セシウム134	不検出 (<0.063)	不検出 (<0.35)	不検出 (<0.43)	不検出 (<0.40)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)
	放射性セシウム137	不検出 (<0.075)	不検出 (<0.42)	不検出 (<0.35)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.1)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)	不検出 (<0.2)
ドレン部	放射性セシウム134	不検出 (<2.5)	不検出 (<0.75)	不検出 (<0.76)	不検出 (<0.88)	不検出 (<0.5)	不検出 (<0.7)	不検出 (<0.4)	不検出 (<0.4)	不検出 (<0.7)	不検出 (<0.5)
	放射性セシウム137	不検出 (<2.8)	不検出 (<0.85)	不検出 (<0.75)	不検出 (<0.80)	不検出 (<0.5)	不検出 (<0.6)	不検出 (<0.5)	不検出 (<0.4)	不検出 (<0.5)	不検出 (<0.6)

※ 「不検出」とは、検出下限値以下を表します。また、()内は、検出下限値を表します。

※ なお、検出下限値以下は、「不検出」となります。

※ 平成24年6月以降は、災害廃棄物受入後の値です。

※ ろ紙部・・・排ガス中の粒子状物質を煙道に設置したろ紙によって捕集します。

※ ドレン部・・・ろ紙部を通過した排ガスを蒸留水等が入った吸収ビンに接触させて捕集します。

■ 敷地境界線の空間線量率の測定結果

(単位: μSv/h)

	最大	平均	測定回数等	
受入前	東	0.086	0.077	140回
	西	0.083	0.073	H23.7.26
	南	0.091	0.083	~
	北	0.090	0.080	H24.6.5
受入後	東	0.080	0.066	248回
	西	0.077	0.061	H24.6.12
	南	0.078	0.070	~
	北	0.082	0.069	H24.10.31

監視基準: 0.23 μSv/h
測定頻度: 週1回以上

